

工学研究所長就任にあたって

今井 崇雅*

Message from the Director of Research Institute for Engineering

Takamasa IMAI*

2018年度4月より2年間、工学研究所所長を務めさせて頂くこととなりました。工学研究所は、歴代所長をはじめ多くの方々により、整備された規程類や体制のもとで、円滑に機能を果たしています。現在はその機能を生かし、より工学の発展に資する拠点となることを目指しています。本稿で、今年度の研究所活動概要をご紹介しますことで、就任の挨拶に代えさせて頂きます。

今に始まったことではありませんが、科学技術の急速な進展により技術分野は目を追うごとにますます複雑多岐に分化されつつあります。そのなかで今まで異分野と考え、交流のなかった複数の専門分野との連携により、新たな進歩が得られるケースは今後もさらに増えていくことでしょう。

本研究所の大きな役割の一つは、このような科学技術の急速な進展への対応も念頭に置いた、既存組織の枠を超えた研究活動推進に資することです。今年度は、グリーンイノベーション、医療・健康をはじめとした21世紀に解決を求められている各種課題に取り組む合計27テーマへの支援を行っています。内訳としては、共同研究4テーマ、学内外の人材を招聘して遂行するプロジェクト研究18テーマ、課題研究所を設立して実行するプロジェクト研究5テーマです。研究テーマごとに、幅広い人材や各種資源の研究所への結集することで、効率な研究の進展を図っています。

研究所の第2の役割は、研究活動で得られた成果やその母体となる研究組織の活動を情報発信することです。代表例としては、工学部の協力を得て編纂されている本誌工学研究が挙げられます。テクノフェスタでは、研究成果の発信のみならず、企業との連携を含む新たな研究体制の構築も念頭に置いた交流の場も設けています。学外の関連分野の組織との連携の促進も念頭に置いた、工学部・工学研究科の各研究室を紹介した工学系紹介冊子も刊行しています。みなとみらいのKUポートスクエアにおいては、今年度も「暮らしのなかのサイエンス」として、一般の方々に親しんで頂ける題材にて講演会を開催します。今年度は「Scratch2.0ではじめるプログラミン

グ入門」と題して、ゲーム作成を演習題材としたプログラミングに取り組んで頂きます。

第3の役割として、共同利用機器・設備の管理運営が挙げられます。冒頭に述べたとおり科学技術の進展に伴い、より高度な機能をもつ装置や設備活用の必要性が高まっている中、より効率的な共同利用のしくみがますます求められると想定されます。課題を抽出の上、利用者の意見も踏まえてより活用しやすい仕組みの整備を図って参ります。

このほかテクノサークル支援の活動も行っています。テクノサークルは「研究者・技術者の卵」ともいえる工学部生を中心とした学生が関心をもった課題ごとにあつまり、工学知識を活用して課題解決に向けた研究活動を行うサークルです。学生自らが課題を解決していくなかで、さらなる研究や技術開発への意欲を醸成することもねらいとしています。今年度は7件のサークル活動を支援しています。

ご紹介させて頂きました活動には、工学部、工学研究科と連携したものが多数あります。研究所としては、既存組織の枠を超えた活動推進をはじめとした研究所らしい機能を生かすことで、今後想定される課題解決への貢献も図りたいと考えております。

ご紹介させて頂きました研究活動推進、成果やそれを育んでいる組織情報の発信など、数々の機能をあわせもつ工学研究所は、運営委員、研究支援委員、大型装置管理委員をはじめとした研究所員、ならびに学部、研究科と連携したテクノフェスタ企画委員・実行委員、工学研究編集委員、工学系冊子編集委員の皆さまの活動により成り立っています。今後、研究所の目的に沿った活動のより効率的な推進に向け、多くの皆様からのご提案やアイデアを頂きたいと考えています。そのようなアイデアを頂くためにも、工学研究所のしくみや活動概要をよりわかりやすく発信していきたいと考えております。関連委員会の皆様のみならず所員の皆様のご協力を改めてお願い申し上げます。

*工学研究所所長
Director, Research Institute for Engineering